

2022
BEST
FACULTY
MEMBER



University of Tsukuba

2022 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	木村 武史	教授	1
人文社会系	竹中 佳彦	教授	2
人文社会系	秋山 肇	助教	3
ビジネスサイエンス系	中村 亮介	准教授	4
数理物質系	辻村 清也	准教授	5
数理物質系	矢田 和善	准教授	6
システム情報系	大澤 義明	教授	7
システム情報系	藪野 浩司	教授	8
システム情報系	秋本 洋平	准教授	9
生命環境系	磯田 博子	教授	10
生命環境系	TOFAEL AHAMED	准教授	11
生命環境系	雷 中方	准教授	12
人間系	野呂 文行	教授	13
人間系	京免 徹雄	助教	14
体育系	征矢 英昭	教授	15
体育系	下山 寛之	助教	16
芸術系	八木 春生	教授	17
医学医療系	鈴木 広道	教授	18
医学医療系	高橋 智	教授	19
医学医療系	松丸 祐司	教授	20
医学医療系	山崎 聡	教授	21
医学医療系	山崎 正志	教授	22
医学医療系	大宮 朋子	准教授	23
図書館情報メディア系	加藤 誠	准教授	24
計算科学研究センター	矢島 秀伸	准教授	25
生存力付ミクス研究センター	岡本 直樹	助教	26

木村 武史 教授

所属 人文社会系

専門分野 宗教学
アメリカ研究
文化人類学・民俗学



— 業績 —

単著『北米先住民族の宗教と神話の世界—歴史と文化交渉の観点から—』（筑波大学出版会）を上梓し、編著書『性愛と暴力の神話学』（晶文社）は『週刊読書人』に掲載された書評で高評価を得たほか、オンライン国際学会誌Religion, Guest Editor 1件、査読付き国際共著論文1報、査読付き学術論文1報、学会発表1件、その他発表2件等の顕著な業績を挙げた。

学内では教学マネジメント室員、人文社会系研究推進室長、比較文化学類国際交流委員会委員として本学の教育の発展および学修の充実に尽力し、学外では日本宗教学会理事、総合人間学会理事、同運営委員を務め、研究コミュニティの発展に貢献した。

略歴

山口大学講師、助教授、筑波大学人文社会系准教授等を経て、平成30年4月より現職。

竹中 佳彦 教授

所属 人文社会系

専門分野 政治学
日本政治論



— 業績 —

科学研究費で実施した広義のエリートに対する調査をもとに共編著『現代日本のエリートの平等観－社会的格差と政治権力』を公刊し、朝日新聞や学会誌等の書評で取り上げられ、注目された。学外では、日本政治学会監事など、国内の政治系学会の運営に貢献し、令和4年5月から理事長として日本選挙学会を運営している。学内では、人文社会科学研究群長として、研究群の運営・組織整備に尽力し、人文社会系の運営にも寄与したほか、学長補佐室長として本学の運営の一端を担った。

略歴

北九州大学講師、助教授、教授、筑波大学人文社会科学研究所助教授等を経て、平成20年8月より現職。

令和3年4月～現在、学長補佐室長、令和4年4月～現在、人文社会ビジネス科学学術院長。

秋山 肇 助教

所属 人文社会系

専門分野 平和研究
憲法
国際法
国際機構論
無国籍



— 業績 —

「ムーンショット型研究開発事業/ミレニアプログラム」のチームリーダーを務め、「戦略的創造研究推進事業（さきがけ）」の特定課題調査に採択された。複数の学会等で研究発表を行うとともに、「筑波会議2021」でセッションを主宰し、さらに国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）主催の国際会議に招待されて参加し議論を行うなど、国内外において活発な研究活動を展開した。

多様な視点から憲法学習の機会を提供する「TSUKUBA憲法レクチャー」を創設した。

略歴

日本学術振興会特別研究員DC1、立命館大学国際関係学部嘱託講師を経て、令和2年3月より現職。

中村 亮介 准教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 会計学



— 業績 —

共著書『財務制限条項の実態・影響・役割』が第61回日経・経済図書文化賞および日本経済会計学会学会賞（著書の部）を受賞した。その研究を発展させ、“Debt Covenants in Japanese Loan Markets: In Comparison with the Traditional Relationship Banking”等の研究論文を発表した。また、会計上の不正検知の領域の研究を進め、特許を出願した。

略歴

帝京大学経済学部講師、准教授を経て、平成25年10月より現職。

辻村 清也 准教授

所属 数理物質系

専門分野 電気化学



— 業績 —

Biosensors and Bioelectronics誌への掲載論文を含む10報の論文を発表した。その中の1報はACS Sensors誌の表紙を飾り、新聞やテレビ等のメディアで取り上げられ、広く注目を集めた。また、科研費、A-STEP等の複数の外部資金を獲得し、二国間交流事業等、獲得した複数の外部資金により、海外との共同研究を活発に行うとともに、特許も2件出願するなど、顕著な業績を挙げた。

略歴

京都大学大学院農学研究科助手、助教を経て、平成23年8月より現職。

矢田 和善 准教授

所属 数理物質系

専門分野 高次元統計解析
数理統計学



— 業績 —

2019年から2021年の3年間に、13編の高次元統計解析に関する論文を執筆している。特に2021年は、Journal of Multivariate Analysis 50周年記念特別号の招待論文を執筆し、日本数学会の雑誌「数学」に2度目の論説を執筆している。さらに、一連の研究は国際賞 Abraham Wald Prize受賞など、高い評価を受けている。また、Journal of Multivariate Analysisをはじめ4つの学術雑誌の編集委員を務めている。加えて、新学習指導要領に対応した高校教科書6冊を執筆するなど、社会貢献にも顕著な業績がある。

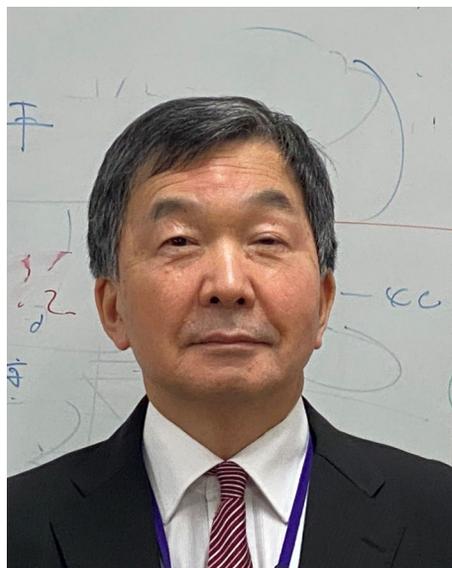
略歴

筑波大学大学院数理物質系助教等を経て、平成28年5月より現職。

大澤 義明 教授

所属 システム情報系

専門分野 社会工学
都市計画
地域科学



— 業績 —

県内外の高校との高大連携活動を実施するほか、本学高大連携委員会委員、同委員長、教育社会連携推進室長を歴任し、本学と高校の接続・連携に多大な貢献をした。茗溪会理事・筑波学都資金財団理事・社会工学類同窓会幹事・都市計画同窓会幹事を務め、本学一期生として入学以来、常に本学の発展に尽力し、特に本学同窓会運営に絶大な貢献をした。

また、応用地域学会会長を務めるなど、都市解析分野を代表する研究者の一人として活躍している。

略歴

熊本大学工学部助手、筑波大学社会工学系講師、助教授等を経て、平成14年3月より現職。

藪野 浩司 教授

所属 システム情報系

専門分野 機械力学・計測制御



— 業績 —

多くの機械システムに本来存在する非線形特性に注目し、それを積極的に発現させることにより、機械システムの飛躍的な高知能・高機能化を実現する研究に取り組んでいる。その対象は、細胞質量計測用MEMSセンサー、超高速鉄道の実現に向けた振動制御ジャイロ装置、宇宙用柔軟劣駆動マニピュレーター等、ナノからマクロまで様々なスケールの機械システムにおよび、成果は9編の国際ジャーナル誌、数多くの国際会議にて発表された。

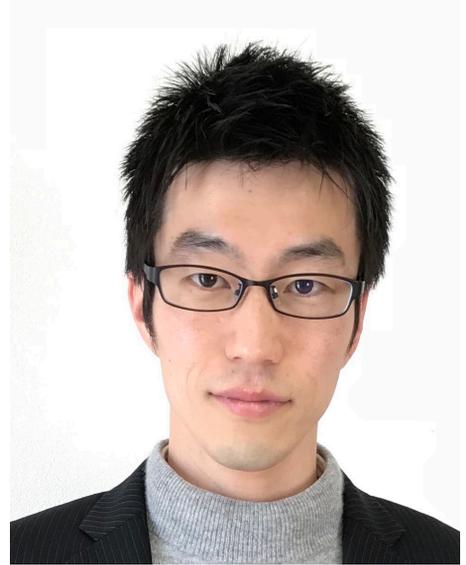
略歴

理化学研究所情報科学研究室基礎化学特別研究員、筑波大学物理工学系講師、構造工学系助教授、慶應義塾大学理工学部教授等を経て、平成25年4月より現職。

秋本 洋平 准教授

所属 システム情報系

専門分野 知能情報学
ソフトコンピューティング



— 業績 —

AI・機械学習分野の最重要課題の一つ「ブラックボックス最適化の基礎研究」を牽引し、進化戦略と呼ばれる発見的探索法の理論解析において革新的な成果を挙げた。また、自律運行船実現に向けた諸問題に対し、ブラックボックス最適化技術を応用するなど、社会実装に向けた応用研究においても成果を挙げている。複数の学術論文、国際会議論文を発表するとともに、複数の権威ある欧米学術雑誌において、唯一の日本人としてAssociate Editorを務めている。

略歴

フランス国立情報学自動制御研究所（INRIA）博士研究員、信州大学工学部助教等を経て、平成30年4月より現職。

磯田 博子 教授

所属 生命環境系

専門分野 食品機能学
天然物創薬



— 業績 —

テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター長を務め、JST-COI事業、JST-OPERA事業、産総研筑波大食薬資源工学OILを推進し、JST共創の場形成支援プログラムの本格型移行に貢献した。地中海・北アフリカ研究センター副センター長も務め、大型国際共同研究であるJST-SATREPS事業や産学連携研究を主導しつつ、国際連携の強化や省庁横断的研究事業を革新的に展開し、JICA理事長賞を受賞した。外部研究機関との連携、大学および部局運営、研究、教育を実施した。

略歴

筑波大学生物科学系準研究員、国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センターNIESフェロー、筑波大学農林学系助教授等を経て、平成19年11月より現職。平成31年2月～現在、テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター長。

TOFAEL AHAMED

准教授

所属 生命環境系

専門分野 農業環境・情報工学



— 業績 —

AIとリモートセンシング技術を用いた農業用ロボットおよび農地生産性評価システム開発の中心に14報の査読付き論文を発表するとともに、編著書2冊、国内学会で31回の発表を行った。農業情報学会の新農林社国際賞を受賞するなど関連学会からの高い評価を得ている。生物資源科学学位プログラムの分野横断的な4科目を担当し、生物資源学類と英語プログラムで基本的な3科目を担当し、19名もの大学院生の主指導を行い、その大半が留学生であるなど、大学院の国際化教育に尽力している。TGSWでのセッションのオーガナイズなども行い、本学の海外への発信力向上に大きく貢献している。

略歴

筑波大学客員研究員、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（米国）研究員、バングラデシュ農業大学准教授等を経て、平成22年5月より現職。

雷 中方 准教授

所属 生命環境系

専門分野 環境材料・リサイクル
環境技術・環境負荷低減



— 業績 —

学生へのきめ細かな個別研究指導により、2021年度22名学生が学位を取得し、1名が学長賞を受賞した。32報の査読付き原著論文を国際誌に発表し、10名学生が学会のプレゼンテーション賞を獲得した。新規の廃水処理システム、細菌－藻類自己造粒法（グラニューール）を用いた生物学的廃水処理を世界に先駆けて開発した。SciValの当該部門（Granulation; Aerobic Granular Sludge; Biofilm Matrix）では、2019年から2022年では2位にランクされる研究者である。また、国際誌Bioresource Technology (IF11.889) 等の編集者を務めるなど、本学の国際的レピュテーション向上に寄与している。

略歴 中国復旦大学講師、副教授等を経て、平成24年4月より現職。

野呂 文行 教授

所属 人間系

専門分野 特別支援教育



－ 業績 －

応用行動分析学の専門家として、週1回学校や保育所などでのフィールドワークを通じ、教育現場に通用する問題解決方法や実践的方法の検証を行い、責任著者として9本の査読付き研究論文を特殊教育学研究等の学術誌に発表した。

日本特殊教育学会の理事長を務め、理論と実践の両面からの特別支援教育の向上を牽引し、日本の教育界に多大なる貢献をした。系長補佐として、人間系棟施設改修に尽力したほか、若手教員との対話を行うなど、教員の教育研究活動を支えた。

略歴

筑波大学心身障害系助手、明星大学人文学部専任講師、助教授、筑波大学大学院人間総合科学研究科助教授等を経て、平成25年4月より現職。

京免 徹雄 助教

所属 人間系

専門分野 教育学



— 業績 —

これまでの研究成果を単著の学術図書として刊行したほか、分担執筆の刊行図書3件、および査読付学術雑誌論文を含む雑誌論文9件を発表するなど、卓越した研究成果を挙げた。

複数の学会の理事、学会誌編集委員の他、文部科学省、国立教育政策研究所の委員等を務め、我が国の教育学分野に貢献した。

学内では、時間割やシラバスの作成や入試業務を的確に遂行するとともに、リアクションペーパーを活用し、講義の履修者への丁寧なフィードバックを行った。

略歴

郡山女子大学短期大学部講師、愛知教育大学教育学部講師等を経て平成31年4月より現職。

征矢 英昭 教授

所属 体育系

専門分野 運動生化学、
スポーツ神経科学



— 業績 —

ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター(ARIHHP)の創立に続き、同センターの共同利用・共同研究拠点認定の実現に寄与した。また、同センターが受託したスポーツ庁の東京五輪支援の「スポーツ研究イノベーション拠点形成事業(SRIP)」委託事業を推進し、高い評価を得て無事終了した。Pediartircs誌等に、国際共著論文を含む査読付き原著論文を12報刊行した。研究開発代表者を務めた未来社会創造事業「快適生活をマネジメントする脳フィットネス戦略」を、最高レベルの評価を得て終了した。

略歴

三重大学教育学部講師、助教授、ロックフェラー大学客員准教授、筑波大学体育科学系助教授、体育科学専攻長、ARIHHPセンター長等を経て、平成21年1月より現職。

下山 寛之 助教

所属 体育系

専門分野 運動栄養学
スポーツ科学
応用健康科学



— 業績 —

ヒトのエネルギー代謝と身体組成をテーマに研究活動を行っている。Scand J Med Sci Sportsのスポーツ科学の専門誌だけでなくScience、Nature Commun、Cell Rep Medの国際共著論文の責任著者など、14報の発表をした。第35回筑波大学河本体育科学研究奨励賞を受賞するとともに、研究成果が複数回メディアで報道された。スポーツ医学学位プログラムの教育課程委員会および入試委員会の副委員長を務め、学位プログラムの運営に貢献している。

略歴

福岡大学、ウィスコンシン大学、国立スポーツ科学センターの日本学術振興会特別研究員PD等を経て、平成31年4月より現職。

八木 春生 教授

所属 芸術系

専門分野 美術史



— 業績 —

考古学者による編年研究が主であった中国で、美術史の手法を取り入れた論文を多数発表し、仏教美術史研究に単緒を開いた。単著『紋様与図像』（上海古籍出版社）を出版し、唯一の国外研究者として北京大学考古文博学院編纂の研究書を分担執筆した。中国仏教美術史研究者として、中国からの共同研究や専門家への研究指導の依頼も多く、敦煌研究院の仏学研究中心の研究員に任命され、中央美術学院で集中授業や北京大学で講演会も行った。

略歴

筑波大学芸術学系講師、助教授等を経て、平成25年4月より現職。1988年9月から1990年8月まで北京大学考古系留学（高級進修生）

鈴木 広道 教授

所属 医学医療系

専門分野 内科
感染症内科
感染管理
臨床検査



— 業績 —

感染管理体制の整備を行い、迅速な疫学調査により院内クラスター発生を予防し、県内唯一の特定機能病院としての機能維持に貢献した。

第5波以降の医療逼迫時には臨時医療施設を運営し、県内の中和抗体薬の投与例の約1/3を担った。

ピペットを操作せず、検体採取から約30分で全自動でSARS-CoV-2を検出できる試薬を開発し、体外診断用医薬品として認可を受けた。また、インフルエンザウイルス、RSVを同時検出できる試薬を開発するなど、公衆衛生に多大な貢献をした。

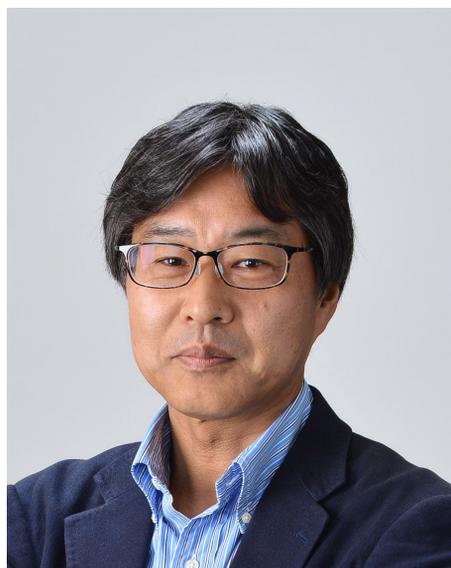
略歴

聖隷浜松病院勤務医、筑波メディカルセンター病院医長、診療科長等を経て、令和2年11月より現職。

高橋 智 教授

所属 医学医療系

専門分野 病態医化学
発生生物学
免疫学
解剖学一般
(含組織学・発生学)



— 業績 —

複数の英文原著論文、Nature Communications誌に掲載された論文を含む複数の英文共著論文を発表した。

JAXAとの共同研究で、責任著者としてマウス宇宙実験についての論文をCommunications Biology誌およびScientific Report誌に発表したほか、Kidney International誌等にも共著論文を発表し、長期の宇宙滞在のリスクや、筋萎縮の分子機構を明らかにするなど、優れた研究業績を挙げた。

略歴

東北大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、先端学際領域研究センター講師等を経て、平成12年8月より現職。
平成29年4月～現在、トランスボーダー医学研究センター長。

松丸 祐司 教授

所属 医学医療系

専門分野 脳卒中
脳および脊髄血管疾患に
対する血管内治療



— 業績 —

本学に脳外科医、神経内科医、救急医からなる急性脳卒中及び脳脊髄血管疾患に対する専門チームである脳卒中科を立ち上げ、一刻を争う脳卒中の急性期治療において最適な治療をただちに提供する体制を整えた。

茨城県の循環器病対策推進協議会の副委員長として、脳卒中部門の脳卒中・循環器病対策基本計画をまとめたほか、県内22の1次脳卒中センターをとりまとめ、県内統一の脳卒中搬送ルールを決定し運用を開始するなど、本学および茨城県の脳卒中診療を飛躍的に活性化した。

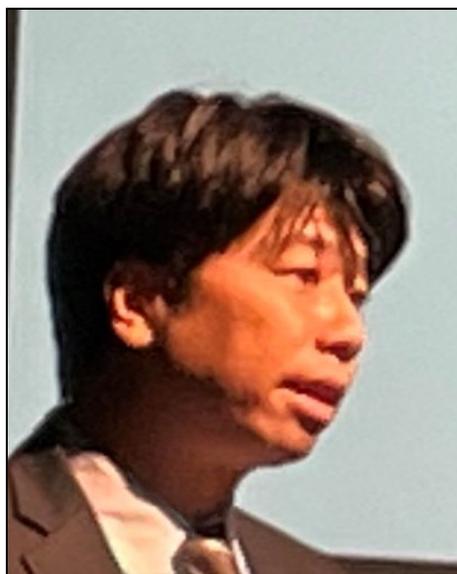
略歴

筑波大学附属病院医員、筑波メディカルセンター救急部医師、県南病院医師、筑波大学臨床医学系講師、虎の門病院脳神経血管内治療科部長等を経て、平成28年11月より現職。

山崎 聡 教授

所属 医学医療系

専門分野 幹細胞生物学



— 業績 —

マウス血液幹細胞を培養により大幅に増幅する方法を開発し、「造血幹細胞の生体外における増幅法の確立」の研究課題で、第18回（令和3年度）日本学術振興会賞を受賞した。開発した方法を用いて、マウスの造血幹細胞を増殖させて骨髄移植の効率を高める研究成果を、責任著者としてNature Communication誌に発表するとともに、研究代表者として複数の研究費を獲得するなど、特筆すべき研究成果を挙げた。

略歴

東京大学医科学研究所附属幹細胞治療研究センター助教、特任准教授等を経て、令和2年3月より現職。

山崎 正志 教授

所属 医学医療系

専門分野 整形外科
脊椎脊髄外科
脊柱靱帯骨化症の病態解明
脊髄再生医療
骨軟骨再生医療
新規インプラントの開発
ロボットリハビリテーション
スポーツ医学



— 業績 —

Spine誌掲載の論文を含む多数の国際共著論文を執筆したほか、国内外で複数の招待講演を行うなど、顕著な研究業績を挙げた。整形外科グループ長・整形外科科長として、先進的な運動器疾患診療を推進するとともに、つくばスポーツ医学・健康科学センター長として、アスリートのスポーツ傷害からの早期復帰のシステムの確立に努めた。

ロボットスーツHALを用いた機能再生治療、脊髄再生医療、新規インプラント開発等の医師主導型臨床研究を推進した。

略歴

千葉大学准教授等を経て2012年12月より現職。日本整形外科学会理事長（2017年～2019年）。日本脊椎脊髄病学会常務理事（2014年～2018年）。厚生労働省特定疾患脊柱靱帯骨化症調査研究班班長（2020年～）

大宮 朋子 准教授

所属 医学医療系

専門分野 地域看護学



— 業績 —

看護学類の保健師課程教務責任教員として保健師の養成教育に携わり、茨城県や自治体とこれまで培ってきた教育ネットワークを生かして教育体制を整え、保健師国家試験合格率100%および保健師志望の学生の就職率100%を達成した。

また、Japan-Expertプログラムの教育にも携わり、TGSWのセッションコーディネータを務めるなど、国際的視野をもって教育にあたった。

略歴

日本電信電話（株）勤務、法人営業職を経て看護の道へ。
日本赤十字看護大学看護学部助教、東邦大学看護学部助教、講師を経て、平成28年11月より現職。

加藤 誠 准教授

所属 図書館情報メディア系

専門分野 図書館情報学
情報検索
ウェブマイニング



— 業績 —

オープンデータ検索技術評価用データセットを世界で初めて構築し、情報検索分野のトップ国際会議であるSIGIRにて筆頭著者としてその成果を発表するなど、顕著な業績を挙げた。また、国際会議SIGIRのシニアプログラム委員、その日本支部であるACM SIGIR東京支部の役員を務めるほか、情報アクセス技術に関する国際ワークショップNTCIRの統括委員長を務めるなど、国内外の研究コミュニティの発展に貢献した。

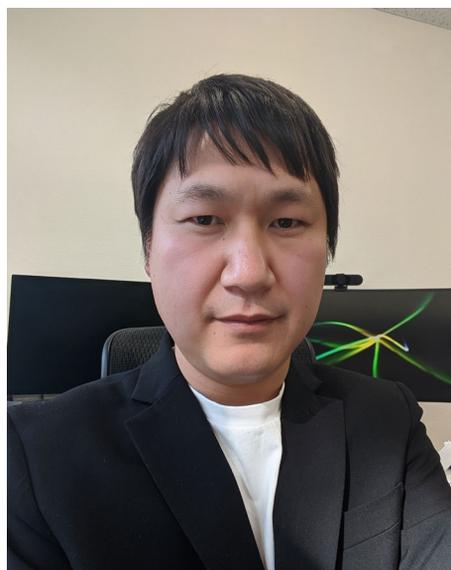
略歴

京都大学大学院情報学研究科特定助教等を経て、平成31年4月より現職。

矢島 秀伸 准教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 理論天文学
計算医学



— 業績 —

数値計算による銀河理論の研究を専門としており、現在大規模なシミュレーションプロジェクトを牽引している。また、宇宙物理の計算技術を医療診断へと応用する異分野融合研究にも取り組んでいる。筆頭著書である2編を含む6編の査読付き学術雑誌論文を出版し、外部資金の代表者として科研費基盤研究(A)、創発的研究支援事業を獲得するなど、顕著な業績を挙げた。これらの一連の成果をもとに、国際会議での2件の招待講演および国内会議での2件の基調講演を行った。

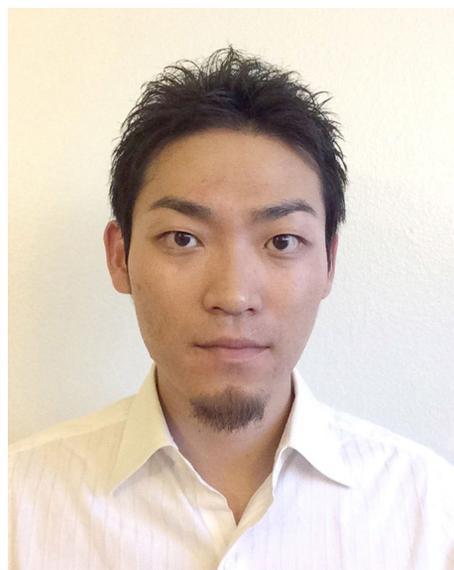
略歴

ペンシルベニア州立大学博士研究員、エディンバラ大学博士研究員、大阪大学宇宙地球科学専攻助教、東北大学学際科学フロンティア研究所助教等を経て、平成30年6月より現職。

岡本 直樹 助教

所属 生存ダイナミクス
研究センター

専門分野 発生生物学
内分泌学
細胞生物学
昆虫生理学



— 業績 —

多細胞生物の発生過程を調節する内分泌機構の解明に取り組み、新規ホルモンやその調節因子を複数発見し、Developmental Cell、Genes & Development、PNAS、Current Biology等の著名な国際学術誌に筆頭著者として原著論文を発表してきた。これらの成果により、「令和3年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞（受賞題目：昆虫の発育と成長を調節する内分泌機構に関する研究）」及び本学の「令和3年度 若手教員特別奨励賞」を受賞するなど、高く評価された。

略歴

理化学研究所研究員、カリフォルニア大学リバーサイド校 Assistant Project Scientist等を経て、令和2年4月より現職。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学BEST FACULTY MEMBER
表彰制度に基づき、2021年度の
教育研究活動において、極めて優れた
業績を上げたと認められ、表彰された
本学教員を紹介しています。

編集・発行／問合せ先
国立大学法人筑波大学
企画評価室
TEL 029-853-2047
Mail ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp